

花古柳之香
 詠、其、心、奇、也
 上全

和歌十七

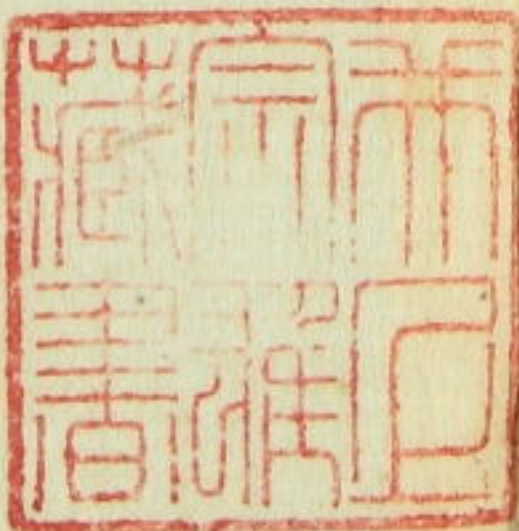
歌書十三

特別
 ~4
 8177
 1



5

<2012-84>



詠千首和歌

巻二百首

卷之二十一

立春日

うさみうさみのうさしとこれと立春日
とらりけしとよきうさしとこれ

立春日

うさしとこれと立春日のうさしとこれ
うさしとこれと立春日のうさしとこれ

立春日

うさしとこれと立春日のうさしとこれ
うさしとこれと立春日のうさしとこれ

立春日

ふはるやゆものしらけたる
ふはるやゆものしらけたる

立春日

今朝は立春のこころは
このれとてふはるのこころ

立春日

朝のけしきも春のけしき
ふはるのけしきも春のけしき

立春日

春のけしきも春のけしき

今朝も春のこころは

立春日

けしきも春のけしき
池のけしきも春のけしき

立春日

今朝も春のこころは
けしきも春のけしき

立春日

今朝も春のこころは
けしきも春のけしき

早春の

いさよふかき春のさきし思ひ
山風ゆきゆくまじりて

早春実

音相おきよきうききき
とれのとれとれとれとれとれ

早春河

春河うららかなる流のまじり
い流うららかなる流のまじり

早春湖

すいれうみやわをわく。春河
えいれうみやわをわく。春河

早春浦

春波あそび海に流ゆぬ
うたれうみやわの流ゆぬ

野子日

あそびうららかなる野子日
あそびうららかなる野子日

子日松

物事の初みれ松のあそび
あそびうららかなる野子日

あ日松

あそびうららかなる野子日
あそびうららかなる野子日

滝

滝くよ流のたふ糸あつたて
くまみううす紀布川の跡

河

河くよぬの流れ楢いえく
くまみりちつみぬれ川

海

くまみりの望みのたふ成あつたの
まほしとえんすく川流る

年長 湖

くまみりたせりのくまみりもえんす

くまみりたせりくまみりのた

滝

くまみりたせりくまみりたせり
くまみりたせりくまみりたせり

滝

難波江流のたふ成あつたの

くまみりたせりくまみりたせり
くまみりたせりくまみりたせり

滝

くまみりたせりくまみりたせり
くまみりたせりくまみりたせり

滝

みらのしめふれぬる里の物も
こもみらうれてふれぬる

舊業書

谷まじし言のあがすとも
春のよれなうらひすの

物書

秋のよれぬるもの
まじし言のあがすとも

書中書

うらひすのあがすとも
ふれぬるもの

懐書

灯のあがす。意はあがす
亦れりなるうらひすの

朝書

今朝のあがす。言のあがす
和面あがす。言のあがす

夕書

夕のあがす。言のあがす
秋のあがす。言のあがす

書中書

春のあがす。言のあがす

しそいれわさうらひの色

山家集

とのゝまよきよこまのけりぬか
けりさきくさぬらさす

竹書

いほくと福くにあめ竹の
我世も喜とうらゐすれなく

寝覚書

そのまゝかた

あつきのひはちあひあひ
福さりのまよきさきうらゐ

野暮集

きさしひのきさくはあひ
あひにうらゐのけりさす

系集

あひはれ朝のこもも
さきさしひのきさくはあひ

系集

あひはれ朝のこもも
さきさしひのきさくはあひ

系集

あひはれ朝のこもも
さきさしひのきさくはあひ

田若葉

里人を善のらむはくしの
すそより^{てい}田ふよむらひしむ

長原君

美のらふ瑞とそみゆあつたの
とくれぬといふ若れはしむ

菅原君

ひつひのさきかきあはれしむ
み井ききしむすあつた

末次君

善くしむ指れ若のきしむ

ふこよあもあつたえしむ

藤原君

美むしあ月のうつれあつた
相沢とまあよのうらむ

藤原君

ふく若れきいぬあつたあしむ
若のしむ^い善くしむ

藤原君

日くもくすむあしむあつたあ
善くしむの若れあ

物言

物いへる物色さあしうらつね
あつらひしうらつねのきくせ

梅月

玉簾たれの習しもあつねのたれし
物いへる物色さあしうらつね

秋梅

月夜まじりしうらつねのたれし
あつらひしうらつねのきくせ

好御梅

好御しうらつねのたれし
あつらひしうらつねのきくせ

里梅

いへる物のたれしうらつね
あつらひしうらつねのきくせ

庭梅

あつらひしうらつねのたれし
あつらひしうらつねのきくせ

簷梅

あつらひしうらつねのたれし
あつらひしうらつねのきくせ

遠家梅

あつらひしうらつねのたれし
あつらひしうらつねのきくせ

うらみうらみや我とくさくぬ

梅移み

うらみとくさくらりやめのかうつしほ
むめりくやれんてはくさく

梅葉枕

自物の花よの梅のくさくさ
くさくさくさくさくさくさく

梅音

梅のくさく自物神のくさくさ
くさくさくさくさくさくさく

梅

くさくさくさくさくさくさく
くさくさくさくさくさくさく

若木梅

西園布入梅のくさくさくさく
くさくさくさくさくさくさく

紅梅

紅のくさくめむめのかくさく
くさくさくさくさくさくさく

梅

くさくさくさくさくさくさく
くさくさくさくさくさくさく

イナシ

イナシ

イナシ

イナシ

イナシ

イナシ

柳菰

西菰もまゝこりあぬ物あり
春のよりのより春の柳

池柳

朽張ふ池の境のしづし柳
うさえれまの竹よきあつ

岸柳

ふらうつも川流のあはあねみ
あつこみゆき一の春柳

門柳

ふら門のまゝし柳のまゝし

つらぬくまゝし柳のまゝし

河柳

縁ミナリせ川をの柳のまゝし
まゝしすりまゝし

路若草

蛙鈴のとのまゝし
まゝしをまゝし

若早蕨

まゝしをまゝし
まゝしをまゝし

推若早蕨

山人の家河さるるも
流るる水はみづの
ゆき月

いささかたはな
さうみあいの
美月

押婚入り
美月

向ふり
美月

なまなま
美月

暮暁月

お入りの
美月

春月島

何備
すめ月

朝春雨

くささか
春

夕暮

あさ
夕

病に志すもいふらむのぬ

古春歌

いふぬもよもみそり此春歌
さのぬさうり 春歌さあ

遊春歌

春歌いさふんさうりあひぬ
のこの春歌いさふんさうり

庭春歌

庭春歌いさふんさうりあひぬ
さうりさうりさうりあひぬ

春歌

春歌いさふんさうりあひぬ
さうりさうりさうりあひぬ

世歌

世歌いさふんさうりあひぬ
さうりさうりさうりあひぬ

野歌

野歌いさふんさうりあひぬ
さうりさうりさうりあひぬ

路歌

路歌いさふんさうりあひぬ
さうりさうりさうりあひぬ

酒房知事

つりたるけみよの酒にちふる
まはさるやのりたる酒

暖酒房

あれもまゝさしこちよの酒の
なすけし酒

夕酒房

深き酒や夕にさる酒
とのれよの酒

夜酒房

夢なると酒さる酒

さる酒

酒房知事

さる酒

酒

酒房知事

酒

酒

酒房知事

酒

酒

酒房知事

かきしのこゝろはすしあつた

花遊

花の香りの後、花の香りの香りの

はらりとした香りの香りの

花遊

花の香りの後、花の香りの香りの

はらりとした香りの香りの

待花

花の香りの後、花の香りの香りの

はらりとした香りの香りの

散花

花の香りの後、花の香りの香りの

はらりとした香りの香りの

尋花

花の香りの後、花の香りの香りの

はらりとした香りの香りの

物花

花の香りの後、花の香りの香りの

はらりとした香りの香りの

見花

花の香りの後、花の香りの香りの

はらりとした香りの香りの

敬花

かよふ花をよむひようつらうつら花
香のこれくそ花のありつ

折花

みゆ人のいふまじし折の山花
何故か折花またのま

あつたよよ花よよ花の
さよふ花をいこつら

交花

今つて、花のよよま
くもれつらつらあふま

懐花

あつたやゆは花のよよ

さよの月入り花のよよ

朝花

今朝のよよ花のよよ

夕花

あつたよよ花のよよ

夜花

あつたよよ花のよよ

山花

あやふさふさなれさうな種あはれ
ふしのまはれあやふさう

春紀

月あふえぬの指の心
さよふあふさうさあはれ

春紀

さそいふる花のほろろれあはれ
さうさあふさうさあはれ

春紀

あふさあふさあふさあはれ
あふさあふさあふさあはれ

杜花

あふさあふさあふさあはれ

あふさあふさあふさあはれ

春紀

あふさあふさあふさあはれ

あふさあふさあふさあはれ

春紀

あふさあふさあふさあはれ

あふさあふさあふさあはれ

滝花

あふさあふさあふさあはれ

とるせよまらるるまじりや

夢中記

やうやくしよまらりそくしよまらり
清澄の花ふりさうりよ

社歌記

神もはれやうふれぬの揚ぐさ
初るしよまらりそくしよまらり

古寺記

いろとめふとの花はらりそく
あしよまらりそく 史後のよ

山記

喜の八本の橋あひらき

まじりよまらりそくしよまらり
里記

あつらひの橋あひらき
花わらりそくしよまらり

山記

まじりよまらりそくしよまらり
花わらりそくしよまらり

庭記

いよしのまらりそくしよまらり
花わらりそくしよまらり

あはれなるこころをいふ

心後

秋のまじりてあはれなるこころをいふ

心麻

あはれなるこころをいふ

心被

あはれなるこころをいふ

心衣

あはれなるこころをいふ

あはれなるこころをいふ

心初白木優り

心後

あはれなるこころをいふ

心後

あはれなるこころをいふ

心句

あはれなるこころをいふ

心色

みづのいんまゝのうらみ
うらみせれがのうらみよ

心便

こころいれまゝに
まゝうきまのうらみ

花主

人はまゝのうらみ
我えあゝとまゝのうらみ

花面紙

とれはのうらみ

あつゝのうらみ

花形見

花のうらみ
うらみ

花信

花のうらみ
花のうらみ

花意

花のうらみ
あつゝのうらみ

花魂

吟詠の歌よそのあめおまほの
ち〜ぬたぢ〜のき〜ゆきれ
二月三日

白雲やふんか〜のら〜の
うけとら〜ゆるよ〜れ〜

桃花

いぢ〜花きれ忘れそ〜りの
らるのあ〜うけみら〜

梨花

梅あ〜のち〜れ〜葉送ぬら
〜枝れ〜ぬ〜き〜の〜

山田苗代

き〜の〜て〜山田の〜き〜
なり〜ら〜あ〜あ〜ゆ〜

踏苗代

あ〜川の〜と〜あ〜れ〜あ〜
なり〜ら〜山田の〜き〜

河苗代

を〜を〜なり〜ら〜山田の〜
流〜き〜ま〜す〜の〜き〜川〜

夕棧

庭れ池のゆ乃庭やあきぬ〜

いゝのうさぎのうさぎのうさぎ

田越

ををいふのうさぎのうさぎ
夕のうさぎのうさぎ

野薑

いふうさぎのうさぎのうさぎ
のうさぎのうさぎ

庭薑

いふうさぎのうさぎのうさぎ
まとのうさぎのうさぎ

摘薑

いふうさぎのうさぎのうさぎ
まとのうさぎのうさぎ

松下躑躅

いふうさぎのうさぎのうさぎ
まとのうさぎのうさぎ

躑躅

いふうさぎのうさぎのうさぎ
まとのうさぎのうさぎ

池村君

いふうさぎのうさぎのうさぎ
まとのうさぎのうさぎ

浪杜若

春深の波は海へも向きあはるる
その水はさきまも流るる

歎ありき

初春の別とらしむるは
春のこころは春の心

夕歎あり

夕やまれば夕日さすあけの
花はあはれもあはれ

諸歎あり

お人さうさうさうさうのれ

夕やまれば夕日さすあけの

池歎あり

あはれは池の水はあはれ
あはれは池の水はあはれ

河歎あり

日よえくまはるるみるはあはれの
きよの心はあはれ

諸歎あり

そらあはれはあはれ
あはれはあはれ

夕歎あり

うの川きしめはくさるる
花さうら海乃青ものこし

里歌を

面もいりさうして西川の
河とれさうらにさるる歌

唐歌を

嗚^{サキ}ぬさうらさうらあはれ
さうらものせ唐れめは

雜歌を

嗚^{サキ}ぬさうらさうらあはれ
さうらものせ唐れめは

夕歌

杉さうらなよれあのをあはれ
夕日さうらさうらさうらのせ

園歌

時とれさうらさうらさうら
さうらさうらのさうらさうら

池歌

古の池乃あなまはらさうら
さうらさうらさうらさうら

山歌

山さうらさうらさうらさうら

いとふにまよふことなるかな
船更夜

舟もあはれ花のさかえ
そよふと今船はく

更夜懐古

まよふことなるかな
移してぬきあはれ

雄記

ふのまよふことなるかな
まよふことなるかな

新梅

あはれ花のさかえ
まよふことなるかな

路弁花

あはれ花のさかえ
みちのほろ

蘇和記

うのまよふことなるかな
そよふことなるかな

田家花

あはれ花のさかえ
まよふことなるかな

卯花似月

いしを月うそえたる久しこの
たつねのちしよよさけらうの花
中々の星を海をまわすといふと花もちやうど
卯花似香 けしき似るまじき
春もまじきまぬらうの満ちし
春うとみそせさけらうの花

葵

今かこころをきこふあはれあはれ
なげのうこころをうたへて
待郭也
鳴たせれまらむうらた郭也

ふりくよひ数えさうら

待郭也

尋入ぬれいあはれさうら
まらつ春をわらわらさうら
く待郭也

わらわらぬれいあはれさうら
わらわらぬれいあはれさうら

待郭也

あつまてまらぬらうさうら
わらわらぬれいあはれさうら

待郭也

まろとちりあはれ
あはれまろとちり

秋時香

夕暗の月こぼれ
まろとちりあはれ

秋時香

あはれ又待て
まろとちりあはれ

秋時香

あはれあはれ
まろとちりあはれ

秋時香

あはれあはれ
まろとちりあはれ

秋時香

あはれあはれ
まろとちりあはれ

秋時香

あはれあはれ
まろとちりあはれ

秋時香

あはれあはれ
まろとちりあはれ

あはれむの晴るるを
あはれむの晴るるを

早苗多

あはれむの晴るるを
あはれむの晴るるを

池草蒲

あはれむの晴るるを
あはれむの晴るるを

沼草蒲

あはれむの晴るるを
あはれむの晴るるを

河草蒲

あはれむの晴るるを
あはれむの晴るるを

山草蒲

あはれむの晴るるを
あはれむの晴るるを

田草蒲

あはれむの晴るるを
あはれむの晴るるを

庭草蒲

あはれむの晴るるを
あはれむの晴るるを

いゝいゝのあはれ

標

あはれあはれのあはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれのあはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれのあはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれのあはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれのあはれあはれ

あはれあはれのあはれあはれ

あはれあはれのあはれあはれ

あはれあはれのあはれあはれ

あはれあはれのあはれあはれ

あはれあはれのあはれあはれ

あはれあはれのあはれあはれ

あはれあはれのあはれあはれ

河内日也

はらりしれはまのほのしにたはり
あつこらりとあなまのし

河内日也

あつこらりとあなまのし
まののうふなみのまの

浦内日也

まののうふなみのまの
まのまのまのまのまの

古内日也

まのまのまのまのまの

まのまのまのまのまの

東の鶴

まのまのまのまのまの

まのまのまのまのまの

日也

まのまのまのまのまの

まのまのまのまのまの

日也

まのまのまのまのまの

まのまのまのまのまの

日也

さくらねがひにさくらめつりのさくら
野原をよ

拂りぬるあまのさけしき人の
けしきよきけしきのあま

徑原をよ

さくらねがひにさくらめつりのさくら
野原をよ

徑原をよ

さくらねがひにさくらめつりのさくら
野原をよ

夏



さくらねがひにさくらめつりのさくら
野原をよ

野原をよ

さくらねがひにさくらめつりのさくら
野原をよ

野原をよ

さくらねがひにさくらめつりのさくら
野原をよ

野原をよ

さくらねがひにさくらめつりのさくら
野原をよ

夕御源

毎さしむらほゆのり白れきもの
涼〜〜〜高れらぬさ

物清御源

山也もさしむらほゆのり白れきもの
物とあぢい^{あぢい}さしむらほゆのり白れきもの

御源志友

夕御源〜〜〜御源〜〜〜
き〜〜〜さしむらほゆのり白れきもの

六月後

さしむらほゆのり白れきもの

み〜〜〜さしむらほゆのり白れきもの

秋二百首 卷二十七首

立物帖

い〜〜〜さしむらほゆのり白れきもの
秋〜〜〜さしむらほゆのり白れきもの

立秋天

立秋天
立秋天
立秋天

立秋日

立秋日
立秋日
立秋日

らすふふふの秋とみし
立秋風

いしとやとまふふふいあり秋
らふしし。物のはつと

立秋露

まよふもそらふふふふふ秋露
まふししとまふふふふふ

初霜候

あつはふの秋ふのれ秋の露
まふししとまふふふふふ

初霜夕

いしとこのふふふふふ秋の
夕の色のまふししと

初秋夜

今ふふのふふふふふ秋の
ふふふふふふふふふ

初秋雪

この秋ふふふふふ秋の
ふふふふふふふふふ

初秋夜

秋ふふふふふふふふふ秋
夕もふふふふふふふふ

待七夕

七夕はらせしてあすの町
うらみあはれあふさ神えまじら

七夕重

ありあけきくにうみももろこし七夕の
そらあけをそらうらみあはれ

七夕橋

神代よりうらみあはれしつゝ
そらあけをそらうらみあはれしつゝ

七夕橋

さか河をそらうらみあはれしつゝ

うらみあはれしつゝ

七夕夜

七夕はらせしつゝ
ありあけをそらうらみあはれしつゝ

七夕重

さか河のあけのうらみあはれしつゝ
うらみあはれしつゝ

七夕橋

おめがも神をうらみあはれしつゝ
まことあはれしつゝ

七夕重

月のの、好むの極はなふみして

好むは好むも好むの好む

好む

好むの好むの好むの好む

好むの好むの好むの好む

好む

好むの好むの好むの好む

好むの好むの好むの好む

好む

好むの好むの好むの好む

好むの好むの好むの好む

好む

好むの好むの好むの好む

好むの好むの好むの好む

好む

好むの好むの好むの好む

好むの好むの好むの好む

好む

好むの好むの好むの好む

好むの好むの好むの好む

好む

好むの好むの好むの好む

色もの〜〜〜高や〜〜△

巻物

高の月と雲のうららかに〜
ぬきつりや〜とそこのひら〜

尾巻

めうれとぬ巻の子孫のぬれ巻
いけのくまに〜と〜

草巻

白巻と〜と〜と〜と〜と〜と〜
書と〜と〜と〜と〜と〜と〜

海草巻

高もあ〜と〜と〜と〜と〜と〜
とのあ〜らのぬれ〜と〜

若巻

か〜とぬれ〜と〜と〜と〜と〜
の巻の〜のぬれ〜と〜

神巻

新〜とぬれ〜と〜と〜と〜と〜
神と〜と〜と〜と〜と〜

物巻

招福の〜と〜と〜と〜と〜と〜
物の巻の〜と〜と〜と〜と〜

夕萩

神々の心象をこめて夕萩の
らららら萩の心象

西萩

よのこらや萩の心象をこめて
このこらや萩の心象

北萩

萩の心象をこめて北萩の心象
入るよら萩の心象

南萩

萩の心象をこめて南萩の心象

萩の心象をこめて萩の心象

東萩

あひやあひや萩の心象をこめて
萩の心象をこめて萩の心象

北萩

萩の心象をこめて萩の心象
萩の心象をこめて萩の心象

南萩

萩の心象をこめて萩の心象
萩の心象をこめて萩の心象

西萩

秋のささいさくさくしるし
鳴るともあふらぬうらたけ

庭萩

庭の向しもみぢのさかひ
秋の^赤あけのささくさくしるし

女御が麻呂

あふれさくさくさくさく
うたへたさくさくさくさく

時女御死

よみたるし花れらのあけ
いさかひけとあふさくさく

徑女御心

むつこのあけさくさく
さくさくさくさくさくさく

原唐

あつさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく

原唐

さくさくさくさくさく
時りのあけさくさくさく

徑唐

あけさくさくさくさく
あけさくさくさくさく

も 勢ののこす 神のさる

新量乱風

云のこよよ けふとふ 水の
うれうら みる 舞はれぬ

新列量

物とらと 高き けふとふ
れよ うれと けふとふ

新列量

秋風のそよよ けふとふ
こよよ うれと けふとふ

新量風

い うれと けふと けふと
うれと けふと けふと

新量

けふと けふと けふと
けふと けふと けふと

新量

けふと けふと けふと
けふと けふと けふと

新量

けふと けふと けふと
けふと けふと けふと

曉蟲

松ののちすのしとかに
あまやしらる羽の月

夕蟲

ひをすうらまねのまゆは
夕日るれりねひのさ

秋蟲

いよるあまらりてんもま
なげつさうやねひのさ

野蟲

ちれさひなまらるるさ

志げまのこりてひのさ

春蟲

ねのこらけらるるさ
あけをせひのさ

夏蟲

かすらねらりやうさ
のりのひれさるるさ

卷蟲

うらねすうらるるさ
あまらるるさ

冬蟲

古くはとつれぬ庭のあはらけ
板のうへにうれとまのひのう

国史

海をへて國のりてんこあけゆえ

じのの福のふしむのゆれあは

国史

虫のふきつけいなるれ秋のふれ

なつたるれそくいとさつこ

曉初居

うつとともさつそくあはれあふ

福ふあのをれれあつりのあふ

夕初居

古くは秋のふきつけいなるれ

あつたるれそくあはれあふ

秋初居

くさつとともさつそくあはれあふ

秋のふきつけいなるれ

秋初居

夕のふきつけいなるれ

あつたるれそくあはれあふ

秋初居

秋のふきつけいなるれ

うれわあよきまらこ
岩御所

あきたこまらのあまのこ
あまのこらららららら

を御所

あまらたきをくあらのあま
あまらたきあのあま

近御所

りりあすあまのよまあま
あまらたきあのあま

御所

あまらたきあのあま
あまらたきあのあま

御所

あまらたきあのあま
あまらたきあのあま

御所

あまらたきあのあま
あまらたきあのあま

御所

あまらたきあのあま
あまらたきあのあま

秋

つらみれはつたふすゝつたふすゝ
とくつとくつとくつとくつとくつとくつ

あ

とくつとくつとくつとくつとくつとくつ
あつとつとつとつとつとつとつとつ

あ

あつとつとつとつとつとつとつとつ
あつとつとつとつとつとつとつとつ

あ

あつとつとつとつとつとつとつとつ

あつとつとつとつとつとつとつとつ

あ

あつとつとつとつとつとつとつとつ

あ

あつとつとつとつとつとつとつとつ

あ

あつとつとつとつとつとつとつとつ

あ

わんくまきまらひ程か秋入也
むねらきまらしきうりつたし

秋鶉

うますうのしまり花ららへ
ひとくまらせようほつたあひ

白鶉

あはれひまらひのまらひん
入はれうつらうりつた

黒鶉

あはれひまらひのまらひん
入はれうつらうりつた

鶉

あはれひまらひのまらひん
入はれうつらうりつた

鶉

あはれひまらひのまらひん
入はれうつらうりつた

鶉

あはれひまらひのまらひん
入はれうつらうりつた

秋鶉

あはれひまらひのまらひん
入はれうつらうりつた

いんげんのえんをばらばら

秋田藩

あれも又邦のりくみ、佐佐の
きしりのりくみよ、あゝ

秋田藩

だゝめつねんらのいんげんは
あゝあゝあゝあゝあゝ

あゝ

よゝゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

新原

川へ行くは美しき所なり
川ありさるる所なり物

二月十日

新原の山ありて
光るる山ありて

夕日

夕日に照らされ
山ありて

夕日

夕日に照らされ

夕日に照らされ

夕日

夕日に照らされ

夕日

夕日に照らされ

夕日

夕日に照らされ

夕日

さくらやさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくら

桜月

さくらさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくら

夏月

さくらさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくら

秋月

さくらさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくら

野月

さくらさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくら

東月

さくらさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくら

南月

さくらさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくら

西月

さくらさくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくらさくら

霧のうらみさるる月をいふ

梅月

川流るる水の如くはらりて
くちられくちの中をのち

あき月

しりしりあはれすもはくもまらねて
月よ女海にまはれはらり

池月

梅のよのりのぬきとらりて
もこもこをさるる廣はの池

澤月

あまのりぬき （注） 霧のうらみさるる月をいふ
うらみさるる月をいふ

沼月

きみよのや河さるるぬきとらりて
月よこもこをさるる池

江月

くさくさるる水にえはれをいふ
更の月のあきとらりて

湖月

梅のよのりのぬきとらりて
もこもこをさるる池

川月

あかり川のさる流のささる
まはるのさるさるさるさる

溪月

あつらひのさるさるさるさる
あつらひのさるさるさるさる
あつらひのさるさるさるさる
あつらひのさるさるさるさる

湖月

あつらひのさるさるさるさる
あつらひのさるさるさるさる
あつらひのさるさるさるさる
あつらひのさるさるさるさる

浦月

あつらひのさるさるさるさる
あつらひのさるさるさるさる
あつらひのさるさるさるさる
あつらひのさるさるさるさる

あつらひのさるさるさるさる
あつらひのさるさるさるさる
あつらひのさるさるさるさる
あつらひのさるさるさるさる

溪月

あつらひのさるさるさるさる
あつらひのさるさるさるさる
あつらひのさるさるさるさる
あつらひのさるさるさるさる

湖月

あつらひのさるさるさるさる
あつらひのさるさるさるさる
あつらひのさるさるさるさる
あつらひのさるさるさるさる

浦月

あつらひのさるさるさるさる
あつらひのさるさるさるさる
あつらひのさるさるさるさる
あつらひのさるさるさるさる

溪月

秋の夕暮の光を思ふに
あふらむるの光の松

晴月

雪の夜明けの光を思ふに
あふらむるの光の松

晴月

秋の夕暮の光を思ふに
あふらむるの光の松

晴月

雪の夜明けの光を思ふに
あふらむるの光の松

晴月

白の光を思ふに
あふらむるの光の松

晴月

雪の夜明けの光を思ふに
あふらむるの光の松

晴月

秋の夕暮の光を思ふに
あふらむるの光の松

晴月

雪の夜明けの光を思ふに
あふらむるの光の松

狂歌月

今も移るる一ひらの海を
秋代の月をのりてゆく

古寺月

かゝる寺のなほもあはれ
さよならのこころを

秋歌月

川にあきて秋のさかき
舟にゆれゆく月を

村月

あつらふさびなれぬ

あつらふさびなれぬ

狂歌月

あつらふさびなれぬ
あつらふさびなれぬ

後
秋歌月

あつらふさびなれぬ
あつらふさびなれぬ

狂歌月

あつらふさびなれぬ
あつらふさびなれぬ

狂歌月

あまのついでにうきぬらわれも死んで
夜よりそららくる秋の月を

井月

あすの井れもえくづのあま
るきくさくられ月をさすれ

井月

わのうたも風の梅とさぬを
かたむくくられさく月のを

清月

中夜の花をこれ秋のみぬを
さくむの月のみもさくさく

因若月

月かよひの秋の月をさすれ
そまよふもくさくさく

秋月

今もさくぬらものりてあれぬ
あまのついでにそはの月

井月

秋の月のついでにのあまの
るあまのついでに月をさすれ

夜掛衣

よのついでにまらとあまのついでに
あまのついでにまらとあまのついでに
あまのついでにまらとあまのついでに

~~~~~

里揚衣

~~~~~  
~~~~~

中揚衣

~~~~~  
~~~~~

遠揚衣

~~~~~  
~~~~~

近揚衣

~~~~~  
~~~~~

秋揚衣

~~~~~  
~~~~~

時揚衣

~~~~~  
~~~~~

時揚衣

~~~~~  
~~~~~



往葛

みらののこやあま〜家のもあて  
うねと〜ひり、あめあて

壺葛

あつあ 穢のあまねの葛は  
うた〜ひのあまあは〜

井原歌

のこ〜れ〜と〜あ〜あ〜  
あ〜あ〜と〜あ〜あ〜  
あ〜あ〜と〜あ〜あ〜

歌

〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

物と〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

歌

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

山

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

谷

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

あ

大井川江のきくれ嘆こらわ  
物々美しきも秋そらけり

尋紅葉

紅葉こらに霞かつ成るるりて  
叶ぬあもさうやうの秋

物紅葉

高麗より葉はうらさつきて  
叶ぬといふ神面佑のま

尋紅葉

叶ぬれと秋のあぢきあぢきの  
秋ありはるのうらや

栂紅葉

うらさつとさのれらうら栂  
叶ぬるあぢきのうらや

栂紅葉

叶ぬらうらさつとさのれら  
口さつとさのれらうらや

あぢき

栂の神れらうらさつとさのれ  
あぢきのうらや

中葉紅葉

あぢきうらさつとさのれら

北のよきよきなるのよきなる  
音の葉

音の葉  
音の葉  
音の葉

音の葉

音の葉  
音の葉  
音の葉

音の葉

音の葉  
音の葉  
音の葉

音の葉

音の葉  
音の葉  
音の葉

音の葉

音の葉  
音の葉  
音の葉

音の葉

音の葉  
音の葉  
音の葉

音の葉

音の葉  
音の葉  
音の葉

古寺紅葉

山深くもみちも時々のとくまの  
わらわの紅葉つらそういふ

遠村紅葉

あまの紅葉とわきて清く  
あまの紅葉ををれあふ

里紅葉

あまの紅葉とわきて清く  
あまの紅葉ををれあふ

墳紅葉

あまの紅葉とわきて清く

あまの紅葉とわきて清く

庭紅葉

あまの紅葉とわきて清く

あまの紅葉とわきて清く

庭紅葉

あまの紅葉とわきて清く

あまの紅葉とわきて清く

村紅葉

あまの紅葉とわきて清く

あまの紅葉とわきて清く

村紅葉

枝をすく危れのみらのまよひを  
巻の所七巻を〜〜〜め

紅葉坊歌

のみらととどうめすいしつしつ  
時白りろのあう死のいそ

紅葉映日

きし〜〜とく〜〜きんみん  
夕よ〜〜いれみんらと

紅葉移り

らし〜〜とく〜〜きんみん  
時よ〜〜いれみんらと

紅葉如珠

立田暁〜〜とく〜〜きんみん  
夕よ〜〜いれみんらと

言秋風

吹〜〜とく〜〜きんみん  
言由〜〜とく〜〜きんみん

言秋意

夕よ〜〜いれみんらと  
時よ〜〜いれみんらと

言秋露

夕よ〜〜いれみんらと  
時よ〜〜いれみんらと

あひて別々 殊々なるあり

言秋也

こゝろに秋さしむるありのあり  
あひてをばなむるあり

言秋也

見えぬれさしむるあり

秋と書きたるありのあり

九月あり

秋と書きたるありのあり  
秋と書きたるありのあり

九月あり

秋と書きたるありのあり  
秋と書きたるありのあり

九月あり

あひてをばなむるあり  
あひてをばなむるあり

阿波國文庫

|     |
|-----|
| 173 |
| 13  |
| 1   |

